

38) 外妊手術時、気管内麻酔に合併せる偽膜性喉頭炎

大塚太一郎, 町沢清一郎
島田 勉, 若月美博

近時全身麻酔は我が婦人科領域に於てもあまねく普及しその手術に対する貢献は著しく手術侵襲の広範且つ安全に行われるようになったことは諸家の承認するところである。我が教室に於ても過去3年間に1000例以上の全麻により開腹手術が行われ、此の1000例中1例の挿管による合併症としての偽膜性喉頭炎を経験し窒息状態に到つたものに気管切開を行い治療せしめたのでその発生、症状、成因、予防等について報告する。

39) 膈トリコモナス症に対する数種薬剤使用例

斎藤喜一郎, 工藤純孝
小松崎 孝, 藤崎皓文
村上喜雄, 佐々木寿三郎

帯下を主訴とする患者中鏡検によりトリコモナスを証明できた者に次の薬剤を投与して次の結果を得たので報告する。

- 1) ギネラン 症例—24例中、一次治癒—24例、再発を見たもの—7例
- 2) トリコフロン 症例—9例、一次治癒—8例、再発を見たもの—1例
- 3) トリコマイシンK錠 症例4、一次治癒3例、再発—1例
- 4) フラジール 症例5、一次治癒5例、再発—無し「夫婦に内服併用」

膈カンジダ症併発例にはギネランを用いた。ピンホン感染が再発に対して有力な原因となり得ることはフラジール投与例からも知れる。未婚例ではそうでない者より治癒しにくい。以上の薬剤使用において膈内PH等何ら見るべき変化・副作用はなかつた。

40) Pyridoxal による妊娠悪阻に対する使用経験

高見沢裕吉, 滝口光雄
染谷 昇, 山口 順
飯島日出男, 土居温良

近年活性化型磷酸化ピリドキサルが妊娠嘔吐悪阻の治療に有効であり生理的有効な治療薬としてすぐれていると言われている。著者らはエーザイ提供によるB. Z. 注射液を使用し、主として産婦人科領

域に於いて妊娠初期(2, 3カ月)の患者(悪心, 嘔吐, 食欲不振)を訴えるものを対称として投与してその臨床症状におよぼす影響をみたので、その使用成績を報告する。投与方法, B. Z. 注射液は1管中に活性化磷酸ピリドキサル10mgを含有する。これを1日10mg 1日~10日筋注及び静注を行つた。B. Z. 注射液を単独か, 20%葡萄糖+ Vit B₁ 又は40%葡萄糖+ Guronsan と併用して行つた。症例31例のうち有効例24例77%(著効例5例)で無効例5例16%, 不明2例6%であつた。副作用は大多数の症例に於いて認められなかつた。本注射液は夏季に主として使用したのでB. Z. 単独による症例は多くを得られなかつた。以上のことによつて妊娠初期の悪阻の治療にB. Z. 注射液が有効であることが判明した。

41) 膈カンジダ症に対するクロールダントインの使用経験

大塚太一郎, 斎藤喜一郎
工藤純孝, 山口龍三郎
大沢茂樹

最近数多くの広スペクトルの抗生物質、及びスルフォンアミド剤の使用により、所謂、菌交代現象が非常に問題となつている。産婦人科外来を訪れる患者のカンジダ検出率は、いづれの分献を見ても、非妊婦10~21%, 妊婦20~30%と可成りの高率を見ている。すなわち帯下を主訴として外来を訪れる患者の中に可成りの高率でカンジダ性膈炎を認めうるものと思われる。

このたび、我々は、エーザイ製薬により新しく合成された抗カンジダ剤クロールダントイン膈錠を使用した結果、自覚的症状、他覚的症状に於て殆んど全例が好転し、培養成績に於てその89%が陰性化し、pH及び清浄度、グリコーゲン係数には悪化は認められなかつた。又副作用も認められなかつた。

以上、クロールダントインは、認むべき副作用なく、カンジダに有力な新らしい、治療剤である。

42) 更年期障害様症候群に対する

γ-Oryzanol の経口投与による臨床治験例

村瀬 靖, 飯島日出男
菊池 昇, 鈴木政治

吾々は今回閉経期前後の更年期障害、卵巣除去の更年期障害様症候群に対して、米胚芽より抽出された所のγ-Oryzanol 経口投与治験例を報告する。

本剤は1錠5mgの錠剤にして連続投与によりそ